

友の会会報

創刊号

平成13年

2001

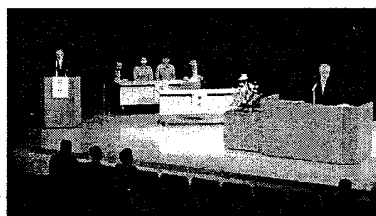
7

発行／江戸東京博物館友の会事務局 130-0015東京都墨田区横網1-4-1 Tel. 03-3626-9910

友の会が盛大にスタート

5月19日、設立総会開催される

5月19日(土)、江戸東京博物館1階ホールで「江戸東京博物館友の会」の設立総会(平成13年度総会)が開催されました。



▲議事が進む総会

総会は司会の佐山彪副会長による開会宣言で始められ、山本市郎会長のあいさつ[別掲]のあと、来賓の花田貢市郎・江戸東京博物館副館長、加藤種男・友の会設立準備委員からご祝辞をいただきました。

総会には99名が出席、委任状提出者252名とあわせて351名が参加して、当日現在会員数577名の過半数に達しましたので、総会が成立、

議事が進められました。

上程された議案は、審議のうえ表決の結果、いずれも可決承認されました。

◇第1号議案

平成13年度・事業計画

◇第2号議案

平成13年度・予算

◇第3号議案

平成13年度・運営委員選出

役員を選出は、友の会規約第7条2項で「総会で選出」とされていますが、議案審議に先立ち会長から「初年度は事前に諸準備を進めるために、平成13年(2001)1月29日の設立発起人会で運営委員を除く役員が選出された」と報告がありました。

これにより、総会では運営委員3名が選出されました。役員の任期は2年です。[役員一覧別掲]



の・い・り・い・り

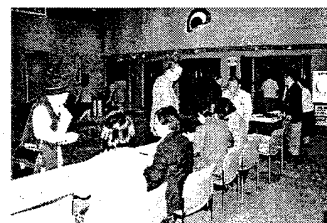
- 5月19日開催の第1回友の会総会で、本年度の事業計画、予算、組織、役員などが決まり、本格活動が始まりました。
- 記念講演・竹内館長「お江戸日本橋セツ立ち」
- 《事業部会だより》
会員の皆さんへ、魅力の特別企画。申し込み受付中です。
・7/27、第1回友の会セミナー
・8/6、ポンペイ展特別内覧会
- 会員優待のお知らせ——
企画展、ショップなどの優待
- 友の会会報創刊号をお届けします。発足記念の設立総会を特集しました。これからも友の会の発展とともに歩んでいきます。ご支援、ご指導をよろしくお願いします。
- この会報は、皆さんと一緒に創るコミュニケーション誌です。ご意見、ご要望、投稿などをお寄せください。



▲大きな拍手で沸く会場



▲1階ホールの総会受付



▲総会には約100人が出席

[会長あいさつ]

人生の貴重な時間をハッピーに

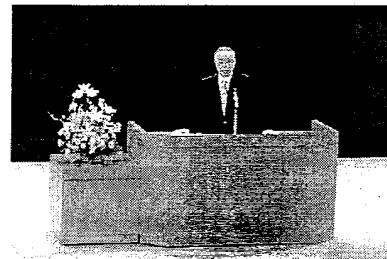
江戸東京博物館友の会 会長 山本 市郎

一昨年の秋、江戸東京博物館に「友の会」をつくらうという話がもちあがり、設立準備委員会が発足することになりました。私もそれに参加させていただき、会則や活動方針など博物館側と一緒に、真剣に討議を重ねてまいりました。

そしていま、その「友の会」が会員一人ひとりのアイデアと活動参加を仰ぎ、自主的に運営される団体として、ここに都民参加の文化活動を目指して船出しようとしているのであります。

21世紀の始まりに当たって「友の会」がスタートすることは、歴史的なインセンティブがあります。江戸幕府が1603年に旗揚げして、当時の一漁村が400年後に東京という巨大都市に発展しました。

その大事な節目の年が2003年に訪れるわけで、この記念の年には友の会を軸として、江戸東京博物館でイベントを打ち上げてみたいと思っております。会員皆さんの力を結集すれば、記念事業・イベント・講演会な



▲会員の結集を呼びかける山本会長

どのアイデアを募って、練り上げ、実現することは夢ではないでしょう。

長い歴史の一瞬に、何千万人の中から相まみえた会員同士は、お互いに何かの縁で結ばれています。大切な人生の貴重な時間を、ハッピーにこの江戸東京博物館友の会で過ごそうではありませんか。

平成13年度 友の会事業計画

初年度(平成13年4月～平成14年3月)の事業概要で、詳細は各部で検討実施する。*(5/19現在) 予定は変更になる場合があります。

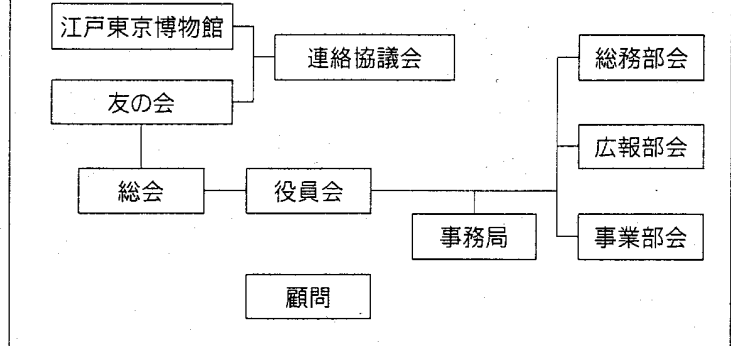
第1回総会	5月19日(土) 10:00 ・13:30～15:00 記念講演「お江戸日本橋七ツ立ち」竹内誠館長
事業部会	講演会 年1回程度。北原進・小澤弘・大口勇次郎各教授を中心に「江戸・東京」についての講演会 友の会セミナー 月1回程度。教授、学芸員、外部講師による「江戸・東京」の歴史や生活などのゼミナール ・第1回-7/27(金) 18:00～「大山詣での今昔」鈴木章生学芸員 イベント ①体験講座:例「江戸手描友禅」「掛け軸・巻物の扱い方」など ②他館ツアー:例「国立歴史民俗博物館」「渋沢史料館」など ③「古文書講座」(シリーズ) ④その他
広報部会	広報制作物の編集・発行 「友の会会報」年4回(6月、9月、12月、3月)
総務部会	組織の充実・拡大、総会の運営、対外的な活動の窓口、広報印刷物の発送
館との連携	江戸東京博物館の諸事業への参加・協力 ①ミュージアムセミナー 「江戸城と徳川幕府」(4～6月まで12回) ②ミュージアムトーク 「走れ! リンタク」ほか(4～6月まで7回) ③特別展示 「新収集資料」(4/10～5/13)、「失われた江戸城」(5/15～7/8) ④その他 「藍染めミニ体験」(5/3～4)、「古文書講座」(全12回) ⑤企画展 「北条時宗とその時代」(4/10～5/27)、「発掘された日本列島2001」(6/12～7/15)、「世界遺産ポンペイ展」(8/7～10/28)、「建築展」(11/20～1/20)ほか
事務局	会の運営に関する諸事務 会員証の発行、会費の管理、会員の管理、情報の把握など

平成13年度 友の会役員

(任期2年)

会長	山本 市郎
副会長兼事務局長	佐山 彪
会計	川島 幸雄
〃	栗國 ゆう子
監事	山下 卓
〃	佐藤 扶美子
運営委員 総務部会長	大谷 善四郎
〃 広報部会長	大松 駿一
〃 事業部会長	山口 千恵子

友の会組織図



平成13年度 友の会予算

【収入】

	費目	項目	金額
	会費	会費収入(550名)	2,200,000
	合計		2,200,000

【支出】

	費目	項目	金額
事務局費	賃金	アルバイト代	204,000
	会議費		10,000
	旅費交通費	事務連絡	20,000
	通信運搬費	会員証発送費	49,500
	備品費	事務用機器	100,000
	消耗品費	事務用品	50,000
	印刷費	会員証制作費	38,500
		封筒制作費	100,000
	租税公課	印紙代	10,000
	諸会費	同種団体当加入	50,000
	手数料	年会費払込手数料(会負担)	38,500
	小計		670,500
事業活動費	会議費		10,000
	旅費交通費		20,000
	通信運搬費	会報発送費	500,500
	備品費	事業用備品	50,000
	消耗品費	事業用消耗品費	50,000
	印刷費	友の会会報などの制作費	160,000
	委託費	会場設営費	150,000
	諸謝金	講師謝礼	300,000
	賃借料	博物館貸出施設	132,000
	保険料	事業活動に伴う傷害保険	10,000
	助成金	自主活動助成	50,000
予備費	設営準備その他予備費	97,000	
	小計		1,529,500
	合計		2,200,000

下は「博物館／美術館」を表現する「標準案内用図記号」これまで施設ごとにバラバラで使われた図記号の統一化をめざし、国土交通省の検討委員会で3月、125種が決まりました。



[友の会発足記念・特別講演]

「お江戸日本橋セツ立ち」

～日本橋からうれしい初登り

江戸東京博物館 館長 竹内 誠



皆さんこんにちは。私、きょうの昼休みにちょっと運動をしてきました。というのは、櫻川びん助さんが江戸博の広場で「かっぱれ」実演をボランティアでやって下さっていますが、同時に基本を教えていただけるといので、実は私も教わってきたところですよ。で、基本の動きはこうやって(と身振り手振りよろしく踊り方を披露。会場大爆笑)。

さて、私は東京の下町、日本橋人形町で生まれ育って、気がついたら江戸の研究をしていました。どうしてかと聞かれても、なかなか理論的には説明できませんが、やはり子供のころから江戸の町になじんできたというのが、原点かも知れません。

それで、家から近かった日本橋には、特別の愛着があります。たとえばデパートは当時のハイカラで、三越や白木屋へ行くのはハレの日というか、いつもと違う気分でした。歩いて20分ほどの距離ですが、普段着では決して行きませんでした。この両デパートをつないでいるのが日本橋、だと私はずうっと思っていたくらいです。

日本橋が初めて架けられたのは、徳川家康が幕府を開いた慶長8年(1603)といわれています。翌年には五街道の制度ができて、その基点とされましたが、明暦の大火で焼けて架け換えられ、その後も修復を繰り返して、明治44年(1911)に現在の石造りの日本橋が完成したわけです。

ところで、橋は「渡るもの」というのが現代の認識ですが、水運が発達して

いた昔は「潜るもの」でもありました。つまり舟から見ても美しいように、橋の下側も立派にできています。また、装飾や紋章も歴史を刻むもので、日本橋はすばらしい芸術品なのです。

その日本橋を、昭和38年(1963)には高速道路を渡して潰してしまいました。便利さだけを追求して、大事な文化遺産の上に道路をつくったというのは、悲しいことだし、恥ずべき破壊行為です。一日も早く高速道路は地下化していただきたいと願っております。

話を江戸のころに戻しますと、当時の日本橋は庶民の観光名所でした。紀州の武士で、江戸へ参勤交代でやってきた酒井伴四郎という人の日記には、たびたび日本橋へ出かけたことが書かれています。「日本橋辺へうろつきに参り…」とあります。いまは「銀座」ですが、江戸時代には「日本橋ウロ」が流行だったというわけですね。日本橋の魅力は観光だけではなく、江戸の経済センター、商業センターでもありました。

大店がずらっと並んでいて、そのひとつが今の三越です。創始者の三井高利は「越後屋」を名乗りましたが、伊勢の出身です。こういう大店は「江戸店(たな)持ちの上方商人(あきんど)」といいました。江戸に支店を持つ上方の商人ということです。江戸に支店があっても、主人は伊勢や京都など上方に住んでいて、上方でいい品物を仕入れて江戸でどンドン売ったわけです。こうした上方商人がたくさん日本

橋で活躍していたんですね。

そして、江戸支店で働いている人たちは、江戸の現地採用ではありませんでした。みんな主人の出身地の伊勢とか近江とか、つまり国許から連れてきたんですね。地縁がある者なら信用できたからです。

だいたい12歳ぐらいで小僧として採用され、それが手代とか、番頭とかへ出世していきます。勤めは厳しくて、出世には長い年月がかかりますが、その代わりにご褒美がありました。

それが「登り制度」です。江戸から故郷の上方へ登る、つまり国許へ帰れるというボーナスが与えられたのです。まじめに勤めて最初の9年が経つと「初登り」といって、国へ帰って50日間いられました。12歳で勤め始めたとする21歳ですね。若い小僧さんですからうれしかったでしょう。

さらに7年勤めて2回目の「中登り」。また6年経って「三度登り」。この時がだいたい34、5歳です。さらに昇進して役員になると最後の「隠居仕舞い登り」となりました。

♪お江戸日本橋 セツ立ち 初登り
行列揃えて アレワイサノサ
コチャ 高輪 夜明けて 提灯消す
コチャエ コチャエ

講演のテーマの歌です。

“セツ立ち”というのは、その初登りに出発した時刻が暁七ツ時で、いまの午前4時ごろですね。

まだ暗いうちに集団で日本橋を発って、ちょうど高輪あたりに来ると夜が明けて、提灯を消すというわけで、こうして故郷へ向かって東海道をのぼっていったのです。

日本橋が江戸の商業の中心地だったことが、この歌から読み取れます。

(総会当日の午後1時半から1階ホールで開催された記念講演の要約を採録しました)

事業部会 だより

いよいよ活動がはじまりました。友の会会員だけへの特典です。皆さんとともに興味あるテーマで企画していきます。多数の方のご参加をお待ちしています。



治療場面の浮き彫り
(ナポリ国立考古学博物館蔵)

世界遺産ポンペイ展～古代ローマの輝き～ 「友の会会員特別内覧会」申し込み受付中！

一般公開に先立ち、会員対象の特別内覧会を開催します。
本展の監修者で、日本におけるポンペイ研究の第一人者、青柳正規・東京大学教授が見どころをご紹介します。

開催日：平成13年8月6日(月)
18:30～20:30 (受付開始18:00)
会場：江戸東京博物館
1階ホール(展示解説)のあと、
企画展示室(自由観覧)
定員：300名(会員本人に限る)
参加費：500円(当日受付でお支払いください)
図録特価：会員特別価格で販売(当日のみ)

▶ 申込方法：
往復はがきに《ポンペイ展内覧会応募》と、
①会員番号②お名前③〒ご住所④電話番号
⑤図録購入希望の有無、を明記、
「返信用の〒あて先」も必ず記入ください。
▶ 申込先：130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局あて
▶ 締め切り：7月20日(金) 必着
申込み多数の場合は抽選

第1回 友の会セミナー

神 奈川県のほぼ中央に位置する大山は、阿夫利山とも呼ばれる信仰の山。落語の「大山詣」でもおなじみですが、庶民の参拝で隆盛を見せるのは、江戸時代半ばを過ぎてから。◆南関東一円に存在した大

山講は、毎年夏になると一斉に大山をめざしました。なぜ大山に登るのか。どんな歴史や信仰の特徴があるのか。◆大山の歴史を振り返りつつ、現在の大山詣での様子もスライドを交えながら紹介していきます。

講演：「大山詣での今昔」
講師：鈴木章生・江戸東京博物館学芸員
開催日：平成13年7月27日(金)
18:00～19:30
会場：江戸東京博物館・1階学習室
定員：70名(会員本人に限る)
参加費：200円(当日受付でお支払いください)

▶ 申込方法：
往復はがきに《第1回友の会セミナー応募》と、
①会員番号②お名前③〒ご住所④電話番号、
を明記、
「返信用の〒あて先」も必ず記入ください。
▶ 申込先：130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局あて
▶ 締め切り：7月13日(金) 必着
申込み多数の場合は抽選

友の会会員の皆さんにお贈りする、会員ならではの特別優待サービスです。江戸東京博物館で、企画展やイベント観賞、ショッピングをお楽しみください——。

会員優待のお知らせ

【企画展】

発掘された日本列島2001

—新発見考古速報展—

好評開催中(7月15日まで)

- ・会員観覧料: 大人 250円
小中高生 120円
- ・会員の同行者: 大人 400円
小中高生 200円

【企画展】

世界遺産ポンペイ展

—古代ローマの輝き—

8月7日(火)～10月28日(日)

- ・会員観覧料: 大人 650円
小中高生 320円
65歳以上 350円
- ・会員の同行者: 大人 1,100円
小中高生 550円
65歳以上 600円

【江戸東京博物館歌舞伎公演】

「おかる勘平から梅の由兵衛まで」

—歌舞伎の主人公たち—

- ・期間: 9月6日(木)～16日(日)
- ・開演時刻:
昼の部12:00/夜の部16:30
[金曜]昼の部13:30/夜の部18:00
- ・会場: 江戸東京博物館1階ホール
- ・前売り開始: 7月6日(金)から
- ・友の会会員はチケット10%割引
(同封のチラシをご覧ください)

ミュージアムショップ特別割引

7月5日(木)、6日(金)の2日間

に限り、会員の方は10%割引(通常は5%割引)になります。

■ご注意■

- 書籍など一部に対象除外品があります。
- クレジットカードでの支払いには適用されません。

投 | 稿 | 募 | 集 |

●…会報創刊号いかがだったでしょうか。友の会では会員の皆さんの声を、活動や会報にできるだけ反映していきたいと考えています。皆さんのご意見、ご希望のほか、江戸東京博物館や友の会に関する随筆や詩歌、写真、イラストなどのご投稿を募集しています。



友の会会報は年4回、季刊。
次号は10月発行予定です。

江戸東京博物館友の会会報 創刊第1号

発行日=平成13年(2001)7月1日

発行=江戸東京博物館友の会事務局

130-0015 東京都墨田区横網1-4-1

Tel. 03-3626-9910

編集・制作=友の会広報部会